

岳南建設子会社

ネットで容易に情報共有

管理部門
と現場間

ASPで新サービス

岳南建設が全額出資する情報技術（IT）子会社、ジーサウスシステムズ（本社＝福岡市、猿渡豊繁社長）はファイルサーバーを導入することなく工事管理部門と現場事務所間の情報を共有化できるアプリケーションサービス「NetStorage for JV」の提供を開始した。通常のインターネット環境があれば、新たにハードやソフトを導入することなく管理部門と現場事務所間で情報を共有することができる。同社は「工事分野だけでなく、取引先との情報共有にも活用できる」としている。

「NetStorage for JV」は、インターネット経由でソフトを貸し出すアプリケーションサービス。すでに電力関連企業数社と契約を交わしているという。

建設工事現場事務所と管理部門の情報を共有化する場合、従来は新たにファイルサーバーを導入しないと情報の共有化ができなかったため、導入費用や工事期間の問題もあり、導入に二の足を踏む企業が多かった。

「NetStorage for JV」は自社で新たにファイルサーバーを構築する必要がなくなるため、情報の共有化に費やすコストを安価に抑えることができるうえ、新たに資産を持つ必要がなくなる。

また、自社のメールボックスの容量に制限がある場合、大容量の工事記録写真などを送信できないケースもあるが、「NetStorage for JV」では送信者がアカウントを保有してさえいれば、大容量のデータを送受信することができる。

既存のインターネット環境を利用するが、通信の際はデータが暗号化されるため、セキュリティ上の問題はないという。

また、導入時の初期設定や運用管理、保守管理などはジーサウスシステムズが一括して手がけるため、技術者を新たに確保する必要もない。

ジーサウスシステムズは岳南建設100%出資で今年4月に設立された。ハードやソフト、通信インフラの提案からシステムの運用・監視まで、ITに関するサービスを企業向けに一括して提供している。